



「介護と暮らし」実録体験レポート6

～今年も心配な猛暑がやって来た…～

前回は連載を休んだため、久しぶりのレポートになります。

また今回も私の父の介護生活の紹介を通して、“介護”生活について思案したいと思います。お付き合いいただければ幸いです。

「要介護2」で自意識も低い父の身体機能は衰えるばかりです。生活上の一番の身体的障害は、腰椎や背骨の一部が骨粗鬆症による圧迫骨折（再生しない状況）していることです。今や杖なしで歩くのもままなりません。これから歳を重ねると近い将来は多分寝たきり状態になると推測しています。一方、頭（認知）の方は今のところギリギリ一人暮らしをできる程度で留まっています。週1回のデイサービス（入浴含む）と週2回（1時間程度）ホームヘルパーによる家事支援、そして私の妻による毎日2回の訪問支援。また仕事の休みに合わせて、週に2回程度は私が訪問支援しています。但し、以前からこのレポートにも書かせて頂きましたが、父は昔からかなりわがままで他人を思いやる気持ちが全くない性格のため、おむつ交換等の身体介護はすんなりとやらせてもらえず、妻も毎日かなりストレスになっています。（汚れたおむつを替えるのが大変なのではなく、替えさせてくれないのが大変なのです！）このような状況ですが、何とか生活できていることには、本当に本当に毎日感謝しています。この夏は梅雨明けも早く今のところ（7月中旬現在）昨年歴史的な猛暑を上回るような感じです。このように、来る猛暑、そして近い将来の寝たきり？も今から考慮しつつ、その場合の生活対応についてぼんやりと頭を悩ましてる毎日です。（大震災の被災者の皆さんの苦勞と比べれば全く比較にもなりません）

では皆様、お体、お心をご自愛されお過ごしください。ではまたの機会に。

ボランティアのできる環境

この春、仕事を変わってからボランティア活動を休んでいる。今まで月に1回のペースではあるが3年近く傾聴ボランティアを続けてきた。平日にもかかわらず続けてこられたのは、前職の職場の理解があって休みを取ることができたからである。しかし、新しい会社ではなかなかそうはいかない。それに何よりも新しい生活のリズムや環境に慣れることに精一杯で、毎日が忙しくあっという間に過ぎていく。人の話を聴く余裕などないし、疲れていると話をすることも億劫になってしまう。

改めてボランティアへ参加できる環境を考えてみた。ボランティアは自分の時間を捧げることであり、まずは時間がないとできない。時間は自分で作るものともいうが、時間を作るために関わる人との調整が必要になる場合もある。また、たとえ時間があっても、話をする人に寄り添う心の余裕がないと無理である。今の私に気持ちの余裕はなく、このような状態で傾聴に臨んでも相手の話を聴くことはできないし、相手に失礼だと思う。

今回の転職を機に、ボランティアは周りの理解と協力の上に成り立っていることを実感した。傾聴をやってきた自分もまた、気持ちが元気になるよう友人や家族にいろいろな話を聴いてもらいたいと思う。せっかく続けてきた傾聴ボランティア。自分ができる環境になったら、また始めたいと思っている。

いちのみやのボランティアに期待!

現在、私達のまち一宮には、どれ位のボランティア団体があり、どれ位の人達がボランティア活動をしているのでしょうか。本紙 2 ページに掲載されておりますように、2011 年 3 月末現在で一宮市社会福祉協議会には個人登録者が 308 人、団体登録は 300 団体で 8,616 人となっており、総合計では、実に 8,924 人が何らかの形でボランティア活動に参加していることが分かります。因みに、愛知県下では名古屋市を除けば、断トツの一位であり、改めて一宮市民のボランティアに対する高い関心と、そのパワーを実感しました。少子・超高齢時代を乗り切るためにも、地域福祉の主要な担い手として、更なる増進と活躍を期待したいと思えます。

『人口ピラミッド』を観て想う…。

「人口ピラミッド」という人口統計表からは、いろいろな社会動向が想定できます。現在の人口ピラミッドは、60～64 歳以上の年代層を底辺とした上層の形は、ほぼ正三角形を示し、逆にそのラインを境界とした以下の形は完全に逆三角形となっており、「逆さ富士」の形そのものです。誰が見ても異常な形になっています。それが介護人口の減少、老老介護の増加を招き、無縁社会の問題など、いろいろな社会問題や歪をもたらしているのです。参考までに、国の人口ピラミッドも、私達の町一宮市のピラミッドもほぼ同じ形をしています。少子・高齢・介護保険制度を含め着々と手を打たれていますが、人口ピラミッド図表によって、過去を学びつつ、未来への対策の先取指標ともすべきと思います。国家レベルもさりながら、個人レベルにおいてもいろいろなことが想定され、自分なりの分析や思いを描いてみるのも楽しいものだと思います。

ひとこと

私達はこの見開きページを担当している「市民編集ボランティア」グループです。「社会福祉」を基本理念として自由にテーマを決め、取材・体験・意見などを紹介しています。このページは 2006 年に始まり 6 年目になります。発行は年 3 回（2, 6, 10 月）で、市の広報と一緒に市内全世帯に配布されます。これまでに 18 回発行し、テーマ累計数は 70 有余にもなりました。なお、このページは、一宮市社会協福祉協議会から委託された音訳グループ「ききょう」の皆さんによりテープに吹き込まれ、視覚障害の方たちにも聞いて頂いております。今後とも市民の皆さんのご支援をよろしくお願い致します。